

## 諸派(日本共産党) 石田 秀三 議員



- ①上水道への長良導水受水について
- ②市の入札契約業務について

質問① 鈴鹿市の上水道に長良川河口堰の水を日量1万3千トン入れる計画はストップしていたが、県企業庁が亀山シャープ工場へ日量7千トン供給するために計画変更して、今年から再開するという。鈴鹿市は受水の必要性を改めて検討するのか。また受水量や費用負担の見通しはどうか。水が足りてい



水管橋

る鈴鹿市は、少量で高い水を入れる必要はないではないか。

答弁① 県企業庁は給水計画量4万7600トンを1万8千トンに大幅に引き下げる計画がある。鈴鹿市の受水量は1~2千トンと予測されるが、受水は必要と考える。

質問② 工事以外の入札で、予定価格の半値以下という低価格落札が多くなっている。最低制限価格を考えるべきではないか。また、工事入札では最低価格での入札・抽選落札という事態がつづいている。対応策を求め。

答弁② 工事以外の入札について、最低制限価格を試行的に導入することを検討している。また、工事入札についても、価格だけでなく品質を重視する「総合評価方式」を検討する。

## 市政研究会 大西 克美 議員



- ①不登校対策について
- ②学校給食費の未納について
- ③特別支援教育について

質問① 不登校の現状とこれまでの取り組み、不登校をゼロにするための今後の取り組みを問う。

答弁① ここ数年では、いずれの年も200人を超えている。教職員はきめ細かな対応を行い、欠席が続く児童生徒には、早めに家庭と連絡を取り合うなど努めている。一方、中学校はスクールカウンセラー、小学校は「心の教室相談員」「子供と親の相談員」等を配置しており、今後も対策を充実させたい。

質問② 現在の実態についてを問う。

答弁② 平成17年度、小・中学校を合わせた未納者は63名、額は約119万円である。経済的な理由によらず、その義務を果たさない保護者が少なくなく、督促を行っても、実効が上がらず苦慮している。

質問③ 来年度から特別支援教育が始まるが、支援体制や教員の研修はどうなるのか。また保護者への啓発はどうするのか。

答弁③ 特別支援教育コーディネーターを中心に校内体制を整備するとともに、コーディネーターの指導力向上にも努めている。保護者には、その内容や指導のあり方についての情報をリーフレットにまとめ、配布し、啓発に努めたい。



飯野給食共同調理室

## 市政同志会 儀賀 久明 議員



- ①市長の政治姿勢について
- ②道徳教育について

質問① 市長は信念を持ち指導力を発揮し夢の有る街創りに取り組んで欲しい。鈴鹿市を代表する市長は市民本位の立場で中央政府に活が出来、聞いてもらい、支援を得る為に何れの党派にも拘らず中立を守り市民党员としてブレのない活躍を願う。

答弁① 政治姿勢としては対話と信頼、そして参加と協働であり、市民が主役を意識することである。本市があるべき姿を追求するには、十分な対話をもとに、行政に対する信頼を得ることが最も重要であると考え、この

政治姿勢を基本に据え、「信實一路」の思いを胸に市政の舵取りを行ってきた。今後もこの政治姿勢を崩すことなく、本市の発展に向け、全力を傾ける所存である。

質問② 戦後教育の徳育無視の粗末さから道徳教育がなされず、青少年だけでなく、現在、世代をこえたモラルの荒廃を招いている。早く正常に戻す為に教育界の策略は有るか。また、道徳教育の無かった大人世代に対する方策は有るか。

答弁② 道徳教育については学習指導要領に基づき全ての学校において創意工夫を図り推進しているが、いじめの問題や子どもたちの規範意識の低下が心配される状況をしっかりと受けとめ、今後も道徳教育の充実に、より一層努めたいと考えている。